

## <事業名：海底下CCS実施のための海洋調査事業>

### 評価者のコメント

- 経産省の事業からの独立性、将来の事業実施者からの独立性の確保が求められる。応札者数を増やすための努力必要。
- 海底下CCSの実証試験実施海域（苫小牧沖）のみの基礎的情報を収集すれば足りるのではないか。何故24年度5海域を実施したのか。非効率ではないか。基礎データの年変動も激しいと聞く。実証試験実施が決定してから海底調査をすれば足りるだろう。平成25年度の北九州沖の調査は不要だと考える。
- 経済産業省の実証試験と調査についての連携はさらに可能なのではないか。
- 調査入札企業（株）環境総合テクノスは1者応札、落札率97.7%、全体の42%1億が再委託、さらに関西電力の100%子会社ということで、実施業界側にあり、金額の妥当性、独立性、透明性に疑問が残る。
- 事業の実施にあたって重複性、利益相反性等十分な検証がなされていない。
- 入札の競争性が不十分であり、その原因についても分析を行っていない。再委託先への直接委託等を含め、コスト削減、効率化を一層図るべき。
- 実施箇所の選定を限定的にすべき。
- 少額の予算で意義のある調査を行っていると思う。ただし調査海域の選定の仕方は、もう少し工夫すべき。本当にガス田（油田）跡地以外でStorageが効率的にできるのか、いずれ確実にCCSが実施されるであろう地域を優先すべき。
- 電力会社、石油会社などの関連会社（CCS調査の構成会社や同業他社）を調査に使うのはやめるべき。
- 今後は苫小牧沖に調査を集中した方がいいのではないか。CCSの実施にメドがついてから集中調査した方が効率的ではないか。
- 経産省の実証事業と連携してその成果を利用し本事業を縮小・効率化すべき。  
（理由）①経産省の事業が先行している。内容重複しており、より大規模である。  
②2海域を行う必要性は乏しい。
- 契約を効率化する必要。  
（理由）環境総合テクノス、日本NUSが継続的に一者応札、落札率も高い。

## 評価結果

---

### 事業全体の抜本的改善及び事業内容の改善

(事業全体の抜本的改善：3人、事業内容の改善：3人、現状通り：0名)

#### 取りまとめコメント（要旨）

- 本事業では、評価が3：3に分かれたことから両論併記する。
- 事業は、苫小牧に絞った方がよいのではないか。
- 経産省のプロジェクトの基礎調査・データを活用すべき。事業を存続させるのかも含めて、縮小・効率化を図るべき。
- そもそも独立性や重複の検討が十分になされていない。実施箇所の選定も含めて事業のやり方を精密に検証し抜本的に改善すべき。
- 申請側と許可側とで独立性を重視して、同じ調査であっても別途行うべき。